両セミナーとも，山田先生をはじめ皆様方のおかげで盛況だったが，とりわけ後者はホームズ協会の会員方の参加が多数あり，熱心な質問や議論が飛び交い，30分の時間延長をするほどであった。またそのうちホームズを中心とした「世紀末」を考える機会をもつことを約束し，ひとまず閉会したのである。

今年は5月22日，つまり英文学会前夜にワイルドとシェイクスピアについて，荒井良雄先生がレクチャーパフォーマンスをお引き受け下さった。楽しみである。

また今年の大きな行事としては，11月29日（日）に全国大会をホテルゴーフルリッツで予定している。これまでは土曜日にどこかの大学で催してきたわけだが，これを日曜に，シティ・ホテルでしようという試みは，少なくともダンディズムに反するものではあるまい。もちろんゴーフルリッツ側の御理解と御協力あってこその計画で，親会社の神戸凪月堂社長・下村俊子様に，感謝の意を表したい。

おそらく朝10時頃からのスタートで，4時までに終了，懇親会は座談会をかねた昼食会を考えている。前夜（28日）にゴーフルリッツ宿泊希望等の問い合わせは，早い目に下記支部局まで。

関西支部局でも，会員の方々のワイルドに関する著書・論文を，ゴーフルリッツのライブラリーに保管し，広く利用していただきたいと考えている。どうか下記までお送り下さるよう，お願い申し上げたい。

〒650 神戸市中央区港島中町6-1 ホテルゴーフルリッツ，ファッションライブラリー，日本ワイルド協会関西支部局　phone 078-303-5555（ホテル代表）

# ワイルド書誌

（1991年3月～1992年6月）

木村　克彦　「オスカー・ワイルド『童話集』から」『作新学院大学紀要』（作新学院大学）創刊号　1991年3月

増田　秀樹　「『サロメ』その色彩とイメージ」『大東文化大学英米文学論叢』（大東文化大学英米文学会）No. 22　1991年3月15日

前川　祐一　「オスカー・ワイルド――イギリスのデカダンス(15)，(16)」『英語青年』研究社　1991年6月号～7月号

玉井　暲　「「知」の専門化と世紀末の批評　Ian Small: *Conditions for Criticism: Authority and Literature in the Late Nineteenth Century*　『英語青年』研究社　1991年10月号

菅野　五郎　「『サロメ』考」　*CHART NETWORK*　数研出版株式会社　第5号

1991年10月1日
喜多崎　親，隠岐由紀子　「作品解説；⑭ヘロデ王の前で踊るサロメ　⑮踊るサロメ　⑯踊るサロメ(刺青のサロメ)　⑰出現　⑱出現（部分）　⑲出現　⑳サロメ（素描)」『アサヒグラフ別冊美術特集　西洋編⑰　モロー』　朝日新聞社　1991年10月15日
西村　孝次　「海外文学邦訳事始め（22）　オスカー・ワイルド『サロメ』三態」『日本古書通信』　日本古書通信社　第36巻第10号　1991年10月15日
藤原　正彦　「オックスフォードとケンブリッジ」　『遙かなるケンブリッジ』　新潮社　1991年10月15日
梅津　義宣　「木村克彦著『ワイルド作品論』」『英語青年』　研究社　1991年11月号
久世　光彦　「誰かサロメを想わざる」　『怖い絵』　文藝春秋社　1991年11月1日
イヴォンヌ・スカーゴン，喜多石要訳　『オスカーであることの大切さ』　ありす　1991年11月30日
無　署　名　「作家はチェルシーのストリートがお好き。チェルシーの文化人の家を散策する――小説家・劇作家オスカー・ワイルドの家」『エスティヴァン』　日之出出版　1991年12月号
無　署　名　「久世光彦『怖い絵』」『日刊ゲンダイ』　講談社　1991年12月7日号
貝嶋　崇　「オスカー・ワイルドを旅する」　『熊本大学英文学会だより』(熊本大学英文学会）第20号　1991年12月20日
阿久　悠　「幻燈と迷宮『怖い絵』」『週刊文春』　文藝春秋社　1991年12月12日号
無　署　名　「久世光彦著『怖い絵』」　産経新聞　1991年12月17日
中山　公男　「名画の背景　芸術のための芸術」　『THE GREAT ARTIST　第94号　ホイッスラー』　同朋舎出版　1991年12月17日
梅津　義宣　「*The Picture of Dorian Gray* の 'mirror motif' をめぐって」　『尚絅女学院短期大学研究報告』（尚絅女学院短期大学）　第38集　1991年12月25日
河村錠一郎　『ビアズリーと世紀末』新版　青土社　1991年12月31日
無　署　名　「太田治子『万里子とわたしの美術館』　朝日新聞社刊」　『週刊文春』　1992年3月12日号　文藝春秋社
中山　公男・高階秀爾編集　『象徴派の絵画』　朝日新聞社　1992年3月15日
K．クラーク著，河村錠一郎訳　『ベスト・オブ・ビアズリー』　白水社　1992年3月20日
扇田　昭彦　「奇才が操る魔術的空間――バーコフ演出　日本初上演（『サロメ』)」　朝日新聞　1992年3月30日
萩尾　瞳　「ロンドンの鬼才，バーコフの演出舞台がやってくる！」　『エル・ジャポン』　タイム・アシェット・ジャパン　1992年4月号



佐藤　友紀　「必見！　スティーブン・バーコフの魔術的な舞台。　『サロメ』『審判』」『フィガロ』　TBSブリタニカ　1992年4月号
無　署　名　「バーコフ演出の「爆発」――『サロメ』『審判』」　朝日新聞　1992年4月2日
梅津　義宣　『オスカー・ワイルドの短篇小説――モチーフ・構成・文体――』　旺史社　1992年4月1日
『『サロメ』『審判』公演プログラム』　株式会社「セゾン劇場」発行　1992年4月3日
スティーブン・バーコフ「『サロメ』『審判』について」，無署名「キャスト・プロフィール」，「『サロメ』スタッフ，キャスト，あらすじ」，「『サロメ』ロンドン・リットルトン・シアター公演評より」，川村二郎「痙攣の美」，古野浩昭「インタビュー，スティーブン・バーコフに聞く」，池内紀「カフカ・プラハ・散歩」，秋島百合子「バーコフとロンドンのフリンジ事情」，佐藤友紀「世紀末を演出するバーコフ」，ロバート・マクファーレン「舞台写真」，「ワイルド年譜」。
無　署　名　「奇才の『サロメ』開幕」　朝日新聞　1992年4月4日
村上　淑郎　「バーコフの『サロメ』――ヘロデ王の長ぜりふ　力強さときらびやかさ」　朝日新聞　1992年4月6日
堀江　珠喜　『薔薇のサディズム――ワイルドと三島由紀夫――』　英潮社　1992年4月10日
無　署　名　「英国式世紀末『サロメ』劇――ロンドン演劇界の異才「S．バーコフ」来日公演」（PHOTO：野間成昭）　『フォーカス』　新潮社　1992年4月17日号
無　署　名　「S・バーコフ演出『サロメ』人物の掘り下げと芸の力と」『毎日新聞』　1992年4月23日
長谷川　正　「エンジョイ　シネマ・ビデオ　『ウィンダミア夫人の扇』」　『ザ・テレビジョン』　角川書店　1992年5月2日号
塩田　丸男　「健康と友情」　*SIGNATURE*　1992年6月号
紅野　敏郎　「「学燈」を読む（41）――ペンの人内田魯庵（下)」『学燈』　丸善　1992年5月号
木原　武一　「ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』」『要約世界文学全集Ⅰ』　新潮社　1992年5月25日
西村　孝次　「ワイルドとホモの問題」　『学燈』　丸善　1992年6月号

（補遺）

伊藤　幸子　「オスカー・ワイルド作『サロメ』に付されたビアズリーの挿絵」『北里大学教養図書館閲覧ニュース』（北里大学教養図書館）　52号　1987年7月

五味田幸夫　「アイルランド及びオックスフォード時代のオスカー・ワイルド」『玉川学園学術教育研究所　所報』（玉川学園学術教育研究所）　16号　1990年2月28日

饗庭　孝男　『フランス四季暦――春から夏へ』　東京書籍　1990年5月24日

饗庭　孝男　『フランス四季暦――秋から冬へ』　東京書籍　1990年10月24日

竹内二郎編集　『ビアズリーとロンドン』　学習研究社　1990年6月1日

岡崎　一　「日本における Oscar Wilde(1)」*Random* 15号

金子　貴一　「ゲイ世界史――教科書で学んだあの人もこの人もみんなゲイだった――」『クレア』　文藝春秋社　1991年2月号

岡崎　一　「Oscar Wilde の童話(1)」　『研究論集』（東京都立商科短期大学経営学科）　19号　1991年3月15日

（訂正）第8号の書誌の欄で，次の項目について誤りがありました。お詫びして，訂正いたします。

（誤）木村　克彦　『ワイルド作品論』　新潮社　1991年6月

（正）木村　克彦　『ワイルド作品論』　新樹社　1991年6月

## 講演・研究発表

貝嶋　崇　「オスカー・ワイルドの芸術と生活――『ドリアン・グレイの肖像画』を中心に――」　平成3年度尚絅公開講座　1991年7月13日

貝嶋　崇　「オスカー・ワイルドを旅する」　熊本大学英文学会　1991年9月29日　第35回大会

木村　克彦　「「王女の誕生日」と「漁師とその魂」試論」　駒沢大学英語英米文学会　1991年12月7日

## 協会・会員消息

◆『北里大学教養図書館閲覧ニュース』52号の表紙に『サロメ』（ビアズリー作）の挿絵